



Nways Manager for AIX

インストール・ガイド

バージョン 2.0



Nways Manager for AIX

インストール・ガイド

バージョン 2.0

お願い

本書および本書がサポートするプロダクトをご使用になる前に、33ページの『第7章 特記事項』を必ずお読みください。

本書は、Nways Manager for AIX のバージョン 2.0 に適用されます。

本マニュアルについてご意見や感想がありましたら

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.infocr.co.jp/ifc/books/>

をご覧ください。（URL は、変更になる場合があります）

原 典： SK2T-0420-05

Nways Manager for AIX

Installation Guide

Version 2.0

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 1999.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1997, 1999. All rights reserved.

Translation: © Copyright IBM Japan 1999

目次

第1章 概要	1
Nways Manager を 60 日間お試しください	1
SmoothStart	1
自動アラート	2
ハードウェアおよびソフトウェア前提条件	2
第2章 以前のバージョンの上にインストール	3
ObjectStore	3
エレメント・マネージャーおよび Suite	3
Nways Manager ATM	5
リモート・モニター	5
トラフィック・モニター	5
第3章 Nways Manager for AIX のインストール	7
ライセンスの管理	7
ライセンスのアップグレード	8
AIX 4.3 アップグレードの注意事項	9
Netview 修正	9
第4章 Nways Manager アプリケーションの構成	11
Java ベースの装置管理	11
Java ベースの装置マネージャーのヘルプへのアクセス	12
装置構成プログラムについて	12
Web ブラウザーからの装置マネージャーへのアクセス	13
リモート分散インテリジェント・エージェント (DIA)	16
DB2 ユニバーサル・データベース	16
自動ポーリングの停止	19
Web サーバーの設定	20
Apache Web サーバー	20
Netscape Web サーバー	21
Domino Web サーバー	21
ATM マネージャーへの Web アクセス	22
リモート・モニター	22
トラフィック・モニター	22
Nways デプロイメント・マネージャー	23
第5章 Nways Manager for AIX の開始	25
スタンドアロン・モードでのリモート・モニターの開始	25
スタンドアロン・モードでのトラフィック・モニターの開始	26
ATM マネージャーへの Web アクセス	26
README ファイルへのアクセス	26
オンライン資料へのアクセス	27
Acrobat Reader 3.0 のインストールおよび使用	28

第6章 Nways Manager アプリケーションの除去	29
ファイル・セット	30
ログ・ファイル	32
第7章 特記事項	33
商標	33

第1章 概要

IBM Nways[®] Manager for AIX[®] バージョン 2.0 は、異種ネットワーク (ATM、トークンリング、イーサネット、FDDI)、特に、ATM スイッチおよび LAN スイッチから構成される高速バックボーンをもつ LAN ベースのキャンパス・ネットワークを管理する効果的な方法を提供します。

Nways Manager Suite は、次のコンポーネントから構成されています。

- エレメント・マネージャー
- Nways Manager ATM

Nways Manager for AIX バージョン 2.0、そのコンポーネントおよびアプリケーションの説明については、インストール・プログラムの Nways Manager for AIX Installation ウィンドウ上の青い **Information** アイコンをクリックしてください。この情報は CD-ROM で納入されます。

前提条件およびサポートされる Web ブラウザーを含む、最新の技術情報については、次のアドレスで Nways Management Web ページを参照してください。

<http://www.networking.ibm.com/netmgt>

Nways Manager を 60 日間お試しください

Nways Manager のすべてのコンポーネントは、本書に付属の CD-ROM に入っています。Nways Manager バージョン 2.0 のコンポーネントをインストールして、60 日間の試用期間中ご使用いただけます。この期間中 (またはそれ以降)、Nways Manager コンポーネントのうちどれでもご購入いただけます。

Nways Manager コンポーネントをご購入いただくと、コンポーネントをロック解除し、それを永続的に使用できるようにするライセンス証書 (ソフトウェア・キー) を受け取ります。コンポーネントまたはアプリケーションを再インストールする必要はありません。

SmoothStart

SmoothStart[™] は、IBM ネットワーキング装置および IBM Nways Manager for AIX を対象にオンサイト・インストール、構成、統合、および研修のサービスを提供する IBM サービス・オファリングです。すべての情報は、次のアドレスで IBM Global Services Web サイトから入手可能です。

<http://www.as.ibm.com/asus/mus47ae.html>

自動アラート

自動アラートにサインアップされた方には、Nways Manager ファミリーのプロダクトのうちユーザーが関心をもつさまざまなプロダクトについての最新のニュース、修正、およびニュース・リリースをお知らせする電子メールを自動的に送信します。

インターネットの次のアドレスで、自動アラートにサインアップすることができます。

<http://www.networking.ibm.com/netsupt>

ハードウェアおよびソフトウェア前提条件

Nways Manager のインストール・プロセスは、Java Development Kit (JDK) 1.1.6 以降のインストールを必要とします。Nways Manager for AIX バージョン 2.0 のハードウェアおよびソフトウェア前提条件については、インターネットの次のアドレスを参照してください。

<http://www.networking.ibm.com/netmgt>

第2章 以前のバージョンの上にインストール

IBM Nways Manager for AIX バージョン 2.0 コンポーネントを以前のバージョンの上にインストールする場合、この章の指示に従い、現行の構成を維持管理してください。

ObjectStore

ObjectStore バージョン 5.0 は、Nways Manager for AIX バージョン 2.0 Nways Manager ATM をインストールすると自動的にインストールされます。ObjectStore バージョン 4.0 をすでにインストールしてある場合は、それをシステムから除去してからエレメント・マネージャー・コンポーネントをインストールする 必要があります。

ObjectStore バージョン 5.0 には、以下の環境変数を設定する必要があります。

- OS_ROOTDIR 変数は、以下の場所で見付けることができます。
 - /etc/environment
 - /etc/profile
 - ユーザーの \$HOME/.profile (または .dtprofile)

正しいファイルを探し出し、OS_ROOTDIR 変数を定義する行を編集し、次に示すように、ObjectStore の新しいバージョンをポイントするようにします。

```
export OS_ROOTDIR=/usr/lpp/ODI/OS5.0/cset
```

- /.profile または /.dtprofile ファイルで、PATH 変数を定義する行 (下に例を示します) から \$OS_ROOTDIR/bin を削除します。

```
export PATH=$PATH:$OS_ROOTDIR/bin
```

マシンに ObjectStore のどのバージョンがインストールされているか判別するには、次のコマンドを使用してください。

```
lslpp -h ostore_runtime.base
```

エレメント・マネージャーおよび Suite

Nways Manager for AIX バージョン 2.0 の LAN コンポーネントは、Nways Manager for AIX バージョン 1.1 の一部として出荷された、バージョン 3.2 より前のバージョンの Nways キャンパス・マネージャー LAN の上にインストールすることはできません。Nways キャンパス・マネージャー LAN バージョン 3.1 またはそれより前のものをすでにインストールしてある場合は、それを完全にアンインストールしてから、新しい Nways Manager プロダクトをインストールする必要があります。

管理端末に Nways キャンパス・マネージャー ATM バージョン 1 または 2.1 をインストールしてある場合、それを完全にアンインストールしてから、新しい Nways Manager プロダクトをインストールする必要があります。

Nways Manager for AIX バージョン 2.0 の LAN コンポーネントは、Nways キャンパス・マネージャー ATM が同じワークステーションにインストールされていない場合、Nways キャンパス・マネージャー LAN バージョン 3.2 以降の上にインストールすることができます。

古いバージョンの Nways キャンパス・マネージャーを除去するには、そのバージョンに付いているインストール指示を参照するか、インターネットの次のアドレスを参照してください。 <http://www.networking.ibm.com/netmgt>

Nways Manager for AIX バージョン 2.0 エlement・マネージャー・コンポーネントは、それとともに提供されている IBM Nways Manager for AIX バージョン 2.0 Nways Manager ATM コンポーネントと一緒にないと動作しません。

Nways Manager バージョン 1.2.x からバージョン 2.0 に移行している場合、2 つの Nways Device Management マップが表示されます。この問題を修正するには、以下のようになります。

1. マップのうち 1 つを選択する。
2. Netview メニュー・バーから、次の順に選択する。 **Edit->Delete Object->From All Submaps**
3. もう一方のマップについても上記のプロセスを繰り返す。
4. 両方のマップが削除された後、Netview メニュー・バーから、 **Tools->IBM Nways Java->Refresh Submap** を選択する。新しい Device Management マップが表示されます。

Nways Manager バージョン 1.2.x からバージョン 2.0 に移行するときは、バージョン 1.2.x に関連するデーモンを次のようにして除去する必要があります。

1. 次のコマンドを使用して、すべての Netview デーモンを停止する。

```
/usr/0V/bin/ovstop
```

2. 次にファイル /usr/CML/conf/cml.d.conf を編集し、次の文字列で始まる行を除去する。

```
jdmd
```

3. 編集されたファイルを保管する。
4. 次のコマンドを使用して Netview デーモンを再始動する。

```
/usr/0V/bin/ovstart
```

注: Nways キャンパス・マネージャー LAN から Nways Element・マネージャーまたは Nways Manager Suite バージョン 2.0 に移行すると、キャンパス・マネージャー LAN に関連するすべてのプロダクト特有モジュール (PSM) が除去されます。

Nways Manager ATM

Nways Manager の ATM コンポーネントは、Nways キャンパス・マネージャー ATM バージョン 1.1 の一部として出荷された、2.2 より古いバージョンの Nways キャンパス・マネージャー ATM にはインストールできません。このコードの以前のバージョン、および Nways キャンパス・マネージャー LAN の対応するバージョンは、完全にアンインストールしてから、Nways Manager for AIX 1.2.3 をインストールする必要があります。

古いバージョンの Nways キャンパス・マネージャーを除去するには、そのバージョンに付属のインストール指示を参照するか、インターネットの次のアドレスを参照してください。 <http://www.networking.ibm.com/netmgt>

既存のバージョンの Nways キャンパス・マネージャー LAN から移行している場合、ATM Topology データベースを消去してから、本バージョンの ATM コンポーネントを始動する必要があります。このデータベースの消去の詳細については、*Nways Manager ATM User's Guide* の *Clearing the ATM Topology* という見出しの *Administration* のセクションを参照してください。

Nways Manager for AIX バージョン 2.0 ATM コンポーネントは、この CD-ROM で提供されている IBM Nways Manager for AIX バージョン 2.0 エlement・マネージャー・コンポーネントと一緒にないと作動しません。

リモート・モニター

Nways Manager for AIX バージョン 2.0 リモート・モニター・コンポーネントは、現在の構成を維持したまま、以前のすべてのバージョンの Nways キャンパス・マネージャー・リモート・モニターまたは Nways キャンパス・マネージャー・リモート・モニター・アドバンストの上にインストールできます。

トラフィック・モニター

Nways Manager for AIX バージョン 2.0 トラフィック・モニター・コンポーネントは、現在の構成を維持したまま、Nways トラフィック・モニター バージョン 1.1 (Nways Manager for AIX バージョン 1.1 の一部) の上にインストールできます。

第3章 Nways Manager for AIX のインストール

注: Nways Manager バージョン 2.0 のインストール・プロセスでは、JDK 1.1.6 以降をターゲット・ワークステーションにインストールしている必要があります。

Nways Manager for AIX バージョン 2.0 をインストールするには、以下のステップに従います。

1. root ユーザーとしてログインする。
2. NetView デーモンをすべて停止していることを確認する。
3. 次のコマンドを入力することにより、CD-ROM 用のマウント・ポイント・ディレクトリを作成する。

```
mkdir /cdrom
```

注: マウント・ポイントとしては /cdrom を使用する**必要があります**。それ以外のマウント・ポイントを使用する場合、インストール・プログラムは正しく作動しません。

4. IBM Nways Manager for AIX バージョン 2.0 CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入する。
5. 次のコマンドを入力することにより、CD-ROM をマウントします。

```
mount -r -v cdrfs /dev/cd0 /cdrom
```

6. 次のコマンドを入力することにより、シェル・スクリプトを実行してインストール・プログラムを開始する。

```
/cdrom/install.nways
```

インストール・プログラムの Welcome ウィンドウが表示されます。

7. インストール・プログラムの指示に従って、Nways Manager for AIX バージョン 2.0 を選択してインストールする。

重要: CD-ROM を CD-ROM ドライブから取り出すには、最初にファイル・システムをアンマウントする必要があります。そのようにするには、次のコマンドを入力してください。

```
umount /cdrom
```

ライセンスの管理

Nways Manager for AIX バージョン 2.0 を初めてインストールした場合には、「License (ライセンス)」画面が表示されます。その画面ではユーザーのライセンス許諾されたプロダクトを登録するか、またはインストールされた Nways Manager コンポーネントのデモンストレーション・バージョンを使用するかを選択できます。

- ライセンスを取得したプロダクトを登録するには、プロンプトに応じて、顧客番号およびライセンス・キー番号を入力する。
- 選択したコンポーネントの 60 日デモンストレーション・バージョンをインストールするには、単に **CTRL+C** を押して License ウィンドウを終了させる。試行インストールは自動的に完了します。

エレメント・マネージャー・コンポーネントまたは Nways Manager Suite のコンポーネントをインストールする場合、これらのコンポーネントのどのバージョンをインストールしたいかを選択し、購入したライセンスを使用するノードの数を入力するように求められます。

エレメント・マネージャー・コンポーネントまたは Nways Manager Suite の一部をすでにインストールしており、正しいライセンス・キーをインストールしている場合、インストール・プログラムは自動的に完了します。

まだ該当するライセンス・キーがインストールされていない場合、License ウィンドウが表示されるので、キーをインストールし、インストールを完了させてください。

ライセンスのアップグレード

Nways Manager コンポーネントのデモンストレーション・バージョンをアップグレードするライセンスを購入した場合は、単にインストール・プログラムを再び実行し、コンポーネントを選択し、次に License ウィンドウでプロンプトが出たら、ライセンスとともに受け取った顧客番号とライセンス・キー番号を入力してください。

キーはインストールされ、プロダクトは登録されますが、累積されたデータが失われることはありません。

ライセンス取得済みノード数の増加

購入したライセンスで、Nways エレメント・マネージャーを使用して追加のノードを管理することができる場合は、以下のコマンドを使用して、プロダクト・ライセンスに関連するノードのカウントを更新します。

- Nways エレメント・マネージャー・ライセンスがある場合

```
i4blt -U -v "IBM Corporation" -p "Nways Mgr AIX Element Mgr 2.0" -T NUMNODES
```

ここで、NUMNODES はサポートするノードの合計数です。

- Nways Manager Suite ライセンスがある場合

```
i4blt -U -v "IBM Corporation" -p "Nways Mgr AIX Suite 2.0.N" -T NUMNODES
```

ここで、NUMNODES はサポートするノードの合計数です。

監視するノードの決定

Nways Manager は、ファイル `nwaysjma.ini` の内容によって、監視するノードを決定します。監視したくないノードを除去することによって、現行のライセンスを使って監視できる他のノードの数を増やすには、このファイルを編集して、それらの項目を除去することができます。

監視したいノードを追加するには、ファイルを編集して、これらのノードの項目を作成します。これを行うには、それらの `SYSOID` を知る必要があります。

このファイルのコピーは、Nways Manager をインストールして、`original.nwaysjma.ini` と名前を付けると、作成されます。元の構成に戻るには、このファイル `nwaysjma.ini` の名前を変更します。

AIX 4.3 アップグレードの注意事項

ネットワーク管理端末で AIX バージョン 4.3 をインストールするか、アップグレードする場合は、次の点に注意してください。

ネットワーク管理端末で AIX バージョン 4.3 をインストールした後、`LIBPATH` 環境変数を変更して、次のパスを `LIBPATH` の先頭に組み込む必要があります。

```
/usr/lpp/X11/lib/R5:/usr/lpp/X11/lib/R5/Motif1.2
```

ディレクトリ `/usr/Tivoli/lib/aix4-r1` が `LIBPATH` 変数の一部として指定される場合、これが指定される最後のディレクトリであるようにする必要があります。このディレクトリには、AIX システム・ライブラリーの古いコピーが含まれるため、アプリケーションが正しく実行しない原因となる場合があるからです。

以下のファイルを変更して、上記の変更を組み込みます。

- `/etc/netnmrc`
- `/etc/Tivoli/setup_env.sh`
- `/usr/OV/bin/nv6000`
- `/usr/OV/bin/netview`

Netview 修正

Netview を AIX 4.2.1 および 4.3.1 で実行できるようにするソフトウェア修正が入手可能です。以下のエラー・メッセージを受け取る場合、修正を適用します。

AIX 4.2.1 では

```
./netscape
exec(): 0509-036 Cannot load program /usr/net405/netscape_aix4 because of
the following errors:
0509-023 Symbol snprintf in /usr/lib/libX11.a is not defined.
0509-022 Cannot load library libXt.a[shr4.o].
0509-026 System error: Cannot run a file that does not have a valid form
```

AIX 4.3.1 では

```
./netscape
exec(): 0509-036 Cannot load program /usr/netscape/t/net405/netscape_aix4 because of
the following errors:
0509-023 Symbol __malloc_postfork_unlock in /usr/lib/libpthreads.a is not defined
0509-023 Symbol __malloc_prefork_lock in /usr/lib/libpthreads.a is not defined
0509-022 Cannot load library libC.a[shr.o].
0509-026 System error: Cannot run a file that does not have a valid format
```

これらの修正は、次のアドレスで入手可能です。

<ftp://service.software.ibm.com/aix/efixes/netscape/>

または IBM サービス技術員から入手可能です。インストールの指示については、修正に
付属の `readme` ファイルを参照してください。

第4章 Nways Manager アプリケーションの構成

このセクションでは、Nways Manager for AIX をインストールした後に実行する必要がある追加の構成ステップについて説明します。

Java ベースの装置管理

Nways Manager エlement・マネージャーは、以下の IBM ネットワーキング・ハードウェアをサポートしています。

- IBM イーサネットおよびトークンリング・アダプター
- 以下での MSS クライアント UFC
 - IBM 8270 Nways トークンリング LAN スイッチ
 - IBM 8272 Nways トークンリング LAN スイッチ
- IBM ネットワーク・ユーティリティー
- 以下での MSS ドメイン・クライアント UFC
 - IBM 8270 Nways トークンリング LAN スイッチ
 - IBM 8272 Nways トークンリング LAN スイッチ モデル 216
 - IBM 8271 および 8272 の 2 および 3 スロットのイーサネット LAN スイッチ
- IBM 2210 Nways ルーター
- IBM 2212 Nways アクセス・ユーティリティー
- IBM 2216 Nways マルチアクセス・コネクタ
- IBM 8210 Nways マルチプロトコル・スイッチ・サービス (MSS) サーバー
- IBM 8224 Ethernet スタックابل・ハブ
- IBM 8225 Fast Ethernet スタックابل・ハブ
- IBM 8229 ブリッジ
- IBM 8230 集線装置
- IBM 8235 DIALS サーバー
- IBM 8237 イーサネット・ハブ
- IBM 8238 トークンリング・スタックابل・ハブ
- IBM 8239 トークンリング・スタックابل・ハブ
- IBM 8245 Nways 10/100 スタックابل・イーサネット・ハブ
- IBM 8250 マルチプロトコル・インテリジェント・ハブ
- IBM 8260 マルチプロトコル・スイッチング・ハブ
- IBM 8265 Nways ATM スイッチ
- IBM 8270 トークンリング LAN スイッチ

- IBM 8271 Nways イーサネット LAN スイッチ、モデル E12、E24、F12、F24、108、212、412、216、524、612、624、および 712
- IBM 8272 Nways トークンリング LAN スイッチ
- IBM 8273 Nways イーサネット・ルートスイッチ
- IBM 8275 Nways イーサネット・デスクトップスイッチ
- IBM 8281 Nways LAN ブリッジ
- IBM 8282 ATM コンセントレーター
- IBM 8285 Nways Workgroup スイッチ
- IBM 8371 マルチレイヤー・イーサネット・スイッチ
- ネットワーク内の SNMP が使用可能な装置用の汎用 Java™ ベースの管理

注: Nways Manager エlement・マネージャーによってサポートされるハードウェアに関する最新の情報については、インターネットの次のアドレスを参照してください。

<http://www.networking.ibm.com/netmgt>

これらの装置マネージャーは、Nways Web ページ (HTML と Java の両方) で構成され、ローカル管理ワークステーションで、または任意のプラットフォーム上で実行する JDK 1.1.5 準拠の Web ブラウザーから、エンタープライズ内のどこからでも使用できます。

Java ベースの装置マネージャーのヘルプへのアクセス

Java ベースのマネージャーは、Web ブラウザーを使用してそれらの HTML ヘルプ・パネルを表示します。検索パスに組み込まれていないディレクトリーに Web ブラウザーをインストールした場合、オンライン・ヘルプにアクセスすることはできません。インストール・プログラムは、ユーザーが Web ブラウザーとして Netscape を使用していることを想定しています。

Netscape 以外の Web ブラウザーを使用するか、検索パスにないブラウザーを指定するには、`/usr/CML/JMA/java/websvr/properties/BrowserApplet.txt` ファイルを編集して、次の行にこの Web ブラウザーの完全修飾名を指定します。

```
webBrowser.path=
```

装置構成プログラムについて

一部の IBM ネットワーキング・プロダクトには構成プログラムが組み込まれています。Nways Manager では、これらの構成プログラムを装置の JMA から立ち上げることができます。

JMA から構成プログラムを立ち上げるためには、Nways Manager はネットワーク管理ワークステーション上の構成ツールの場所を知る必要があります。1998 年 7 月以降に出荷された構成ツールでは、構成ツールがインストールされるときに、この情報が自動的に更新されます。

古いバージョンの構成ツールを探し出すために、Nways Manager には、Config Tool Locator が組み込まれています。これは、ネットワーク管理ワークステーションにすでにインストールされている既存のバージョンの構成ツールを探し出します。Nways Manager をインストールするとき、および 1998 年 7 月より前に出荷された構成ツールをインストールするたびに再度、Config Tool Locator を実行する必要があります。

Config Tool Locator を実行するには、SMIT から次の順に選択します。

Nways Campus Manager->Configure->Config Tool Locator

Config Tool Locator が、ネットワーク管理ワークステーションにロードされている構成ツールを見付けることができない場合、以下の手順を使用して、プログラムの場所を既知のプログラムのリストに追加することができます。

1. ネットワーク管理ワークステーション上で正しい構成ツール (cfg.exe または cfg.app ファイル) を見付け、ファイル・サイズをメモする。
2. Config Tool Locator の FixCfg.properties ファイル (ディレクトリー /usr/CML/JMA/java/fixcfg 内にあります) を検査し、この構成ツールのサイズが固有であることを確認する。
3. 既存の項目をモデルとして使用して、FixCfg.properties ファイルに新しいエントリーを追加する。
4. Config Tool Locator を再実行する。
5. JMA を再始動する。

Web ブラウザーからの装置マネージャーへのアクセス

装置マネージャーへの Web ブラウザー・ベースのアクセスには、次の 3 つの基本コンポーネントが関係しています。

- Nways Manager ワークステーション
- Web サーバー
- JDK 1.1.5 以降に準拠する Web ブラウザー

Nways Manager ワークステーション

Nways Manager は、Web サーバーから Web ブラウザー・クライアントに送信される Nways Web ページを保持します。

Web サーバー

Java 装置管理アプリケーションは、Web サーバーを構成設定しなくても、ネットワーク管理端末に接続された端末でクライアント・モードで実行することができますが、Web ブラウザーを通じて本当にイントラネット・アクセスするには、Nways Java Management Web ページのサブディレクトリーを見付けるように Web サーバーを構成設定する必要があります。

Nways Web アクセス用にサポートされている Web サーバーには、以下のものが含まれています。

- IBM Internet Connection Secure Server
- Lotus® Domino™ Go Server
- Netscape Enterprise Server

ネットワーク管理端末上で、以下のことを行う必要があります。

1. HTTP サーバーが使用する新しいポート番号を 8000 より高い番号で割り当てる。(デフォルト値は 80 です。) これによって、Web ブラウザー・アクセスに追加のセキュリティ・レベルが加わり、HTTP サーバーを使用する他のアプリケーションとポートが競合しないようになります。
2. 管理システム上で HTML ページが保管されているディレクトリーに別名または論理名を割り当てる。Nways Web ページは、次の場所に保管されています。
`/usr/CML/JMA/java/websvr.`
3. サーバーによりこのディレクトリーに割り当てられるプロパティーが、Web ブラウザーへのアクセスの許可を含んでいることを確認する。これを行う方法の詳細については、ご使用の Web サーバーの資料を参照してください。

ATM マネージャーへの Web アクセス

Web ブラウザーを介して ATM マネージャーを使用できるようにする前に、Web サーバーを構成設定する必要があります。Lotus Domino サーバーについての次の構成は、別のサーバーを使用している場合でも、ガイドとして使用することができます。

1. Web サーバーの構成ファイルに以下のコマンドを入力します。その際、2 つの『Pass』ステートメントをこの順序で入力するようにしてください。

```
Exec      /atm-bin/*      /usr/CML/ATMWEB/bin/*
Pass      /atm-html/*    /usr/CML/ATMWEB/html/*
Pass      /*       /a directory path/*
```

2. 該当するコマンドを入力して、Web サーバーをリセットします。たとえば、次のように入力します。

```
refresh -s httpd
```

JDK 1.1.5 以降に準拠する Web ブラウザー

Java サポートは、ご使用のブラウザーにあります。Web ブラウザーは、Java アプリケーションを動的にロードできます。

Java 通信は、IP ホスト名を使用し、IP アドレスは使用しません。したがって、クライアントとサーバーは両方とも、通信相手の正確なホスト名を必要とします。クライアントに IP アドレスを動的に割り当てられる場合には、この IP アドレスがクライアントの IP ホスト名に関連付けられていることを確認してください。このプロセスは、動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を使って正しく働きます。

クライアントが PPP プロトコルを使用してサーバーに接続する場合、クライアントには IP アドレスと IP ホスト名の両方が動的に割り当てられます。この状況では、Windows[®] 3.x、Windows NT[®]、または Windows 95 は、クライアントで実行されている Java アプリケーションに正しい IP ホスト名を提供しません。したがって、Java アプリケーションは、サーバーに正しい IP ホスト名を提供せず、サーバーはクライアントに非同期 (非送信請求) イベントを送信することができません。この問題を訂正するには、Windows クライアント上の IP ホスト名を、PPP 接続の TCP/IP プロトコル用の値である『localhost』に変更します。そうすれば、Windows クライアント内の Java コードが、サーバーに正しい (動的に割り当てられた) IP ホスト名を提供するようになります。

Nways Web ページにアクセスすると、ブラウザーは、符号なしのアプレットを許可したかどうかを尋ねます。Nways Manager の Web 機能を使用するには、符号なしのアプレットを許可する必要があります。

注: HotJava[™] ブラウザーをご使用の場合は、次のパラメーターを使用してそれを開始する必要があります。

```
hotjava -mx64M
```

リモート分散インテリジェント・エージェント (DIA)

エレメント・マネージャーは、リモートの Java が使用可能なワークステーションに入れて、これらの装置マネージャーに関するパフォーマンス管理ポーリングをオフロードできる DIA を提供します。

DIA と一緒に使用することをお勧めする JDK は 1.1.6 です。

全体の指示については、次の `readme` ファイルを参照してください。

```
/usr/CML/JMA/dia/readme.txt
```

DB2 ユニバーサル・データベース

これらの装置マネージャー用のパフォーマンス管理には、Java Database Connectivity (JDBC) 準拠のデータベースを使用します。ユーザーにお使いいただくために、DB2 Universal Database[®] (DB2 ユニバーサル・データベース) を提供します。

装置マネージャーが JDBC を使用してアクセスできるデータベース・インスタンスを作成する必要があります。以下のステップは、DB2[®] を使用してこれを行う方法を示しています (概念は、別の JDBC 準拠のデータベースを使用している場合と同様ですが、DB2 の指示を参照することが必要となります)。DB2 をインストールする前に、**SMIT -> Security and Users** メニューを使用して、次の AIX グループおよびユーザー定義を作成します。

- **グループ: nwaysdb2**

このグループは、DB2 インスタンスおよび管理サーバーに使用します。

SMIT を使用して、「Add Group (グループの追加)」メニューは、名前が最初に入力されることを要求します。名前を入力した後、Administrative Group フィールドを True に設定します。

- **ユーザー: nwaysdb2**

これは DB2 インスタンスの所有者です。

SMIT を使用して、最初に追加されるユーザーの名前を入力してから、以下のフィールドだけを完了させます。

```
ADMINISTRATIVE USER = true
Primary group = nwaysdb2
Group SET = nwaysdb2,system
ADMINISTRATIVE GROUP = nwaysdb2
```

- **ユーザー: nwaysadm**

これは、管理サーバーの所有者です。この値はオプションです。

ユーザー名 `nwaysadm` を使用し、ユーザー `nwaysdb2` を定義するのに使用されるのと同じステップに従います。

- **ユーザー: root**

`root` についての既存のユーザー定義を変更し、Group SET に `nwaysdb2` を追加します。

これらの変更を完了した後、以下のコマンドを使用して、新しいグループおよびユーザーの正しい設定を確認します。

```
lsgroup nwaysdb2
lsgroup system
```

3 つのユーザーはすべて、両方のグループでユーザーとして表示されるはずですが、

1. これらのユーザーを作成した後、それらについてのパスワードを選択し、各ユーザーとしてログインし、`root` で生成されたものの一時的状況を変更する。これらのパスワードは `DB2` を構成設定するときに必要なになるので、必ずそれをメモしておいてください。
2. インストールを開始するため、次のコマンドを使用して `CD` をマウントする。

```
mount -r -v cdrfs /dev/cd0 /mnt
```

`SMIT` を使用するかまたは `CD` に組み込まれている `db2setup` スクリプトを使用してインストールすることができます。スクリプトを使用してインストールすると、インストールするコンポーネントを選択するのに役立ち、インストール時にユーザーをセットアップできます。

3. ディレクトリーをマウント・ポイントに変更し、スクリプト `db2setup` を実行する。インストールする `Universal Enterprise Database` オプションを選択する。主なプロダクト・グループは 1 つだけ選択できます。
スペース・バーを使用して、オプションを選択します。パネルを完了したら、**OK** をクリックする。
4. インストールがセットアップされた後、インスタンスおよび管理サーバーを作成したいかを尋ねられる。`Instance` を選択してから、**Customize** をクリックして、サーバーをセットアップします。`Instance` ユーザーの場合、ユーザー名として `nwaysdb2` を、グループとして `nwaysdb2` を使用し、以前に構成設定したパスワードを使用します。終わったら、**OK** をクリックします。
5. 次に別のユーザーを構成設定するようにプロンプトが出される。上記で入力したのと同じユーザーを入力します。これは、隔離ユーザーと呼ばれます。
6. 同じ手順を使用して、管理サーバーを構成設定し、その際、ユーザー名として `nwaysadm` を、グループとして `nwaysdb2` を使用する。
7. ユーザーを作成した後、`nwaysdb2.profile` の所有権を検査する。所有権が正しく割り当てられていない場合は、`root` としてログオンし、`$HOME/.profile` の所有権を次のようにして変更する。

```
cd /home/nwaysdb2
chown nwaysdb2:nwaysdb2 .profile
```

注: 次の 2 つのステップでは、`DB2` への `PTF` の適用について言及します。`DB2` を `Nways Manager` とともに使用するよう構成設定する前に、この `PTF` を適用する必要があります。

PTF を現在はインストールしないことにする場合は、次の 2 つのステップをスキップして、インストールを完了することができます。PTF を後でインストールする場合は、そのときに DB2 ファイルを再バインドする必要があります。

8. IBM DB2 ユニバーサル・データベースのバージョン 5 を使用する場合は、リリース 2 以降 (バージョン 5.2 以降) を使用する必要がある。Nways Manager とともにバージョン 5.0 を受け取った場合は、FixPak 6 を適用してバージョン 5.2 にアップグレードします。それ以降の FixPaks を保守の手段として適用しても構いません。

DB2 の APAR を要求する場合には、営業担当員にご連絡ください。

APAR は次のアドレスでダウンロードすることもできます。

<http://www.software.ibm.com/data/db2/db2tech/version5.html>

9. nwaysdb2 のプロファイルの既存の PATH ステートメントの後に次の行を追加する。

```
. sqllib/db2profile
```

10. .profile または .dtpfile コマンドを使用して、新しいプロファイルを活動化する。

11. 次のコマンドを実行して、リポート時にインスタンスを自動的に開始する。

```
db2set -i nwaysdb2 DB2AUTOSTART=YES
```

12. DB2 インスタンスを次のようにして開始する。

```
db2start
```

13. Command Line Processor (CLP) を次のようにして開始する。

```
db2
```

14. CLP プロンプトで、次のように入力する。

```
CREATE DATABASE IBMNMPDB
```

15. データベースが正常に作成されたら、次のように入力する。

```
QUIT
```

16. root としてログインし、Nways Manager のインストール時にディレクトリー /usr/CML/JMA/java/websvr/code が作成されていなかった場合は、それを作成する。

17. 以下のコマンドを使用して、DB2 JDBC ドライバーを Nways クラス・パスに移動する。

```
cd /usr/CML/JMA/websvr/code  
jar -xvf /usr/lpp/db2_05_00/java/db2java.zip
```

18. /etc/environment で既存の PATH ステートメントを変更し、次の行を組み込む。

```
PATH=/home/nwaysdb2/sqllib/bin:/home/nwaysdb2/  
sqllib/adm:/home/nwaysdb2/sqllib/misc
```

19. /etc/environment に以下の行を追加する。

```
DB2DIR=/usr/lpp/db2_05_00  
DB2INSTANCE=nwaysdb2  
LD_LIBRARY_PATH=/home/nwaysdb2/sqllib/lib
```

20. /etc/inittab で、次の行


```
rcdb2:2:once:/etc/rc.db2 > /dev/console 2>script
```

を、次の行と同等の行の直前に移動する。

```
rctcpip:2:wait:/etc/rc.tcpip > /dev/console 2>script
```

21. マシンをリブートして、変更を有効にする。
22. Nways Manager デーモンが実行していることを確認してから、NetView Tools から **IBM Nways Java->Performance Configuration** を選択するか、次のコマンドを発行することにより、Nways Manager Performance Management Configuration アプリケーションを開始する。

```
/usr/CML/JMA/bin/dpadmin
```

23. 「Performance Management Configuration (パフォーマンス管理構成)」ウィンドウから、Database タブを選択する。このウィンドウには 4 つのフィールドがあります。2 つは DB2 用に記入されます。3 番目と 4 番目のフィールドは、UserId および Password ですが、無視することができます。

dpadmin および dpconfig 画面は、ポーリング・リスト、テンプレート、レポート、およびその他のフィーチャーを表示します。コレクションがいったん開始すると、このウィンドウをクローズすることができ、コレクションは実行し続けます。コレクションを停止するには、このウィンドウを再オープンし、**Stop Collection** をクリックします。

DB2 のほかに、IBM は、以下のデータベースを使って JPM をテストするのに成功しました。

- Oracle
- Sybase

自動ポーリングの停止

パフォーマンス統計を収集する必要がない場合、パフォーマンス・ポーリングをオフにすることにより、Nways Manager ワークステーションの作業負荷を軽減して、一部のネットワーク・トラフィックを除去することができます。

これを行うには、次のようにします。

1. 次のコマンドを使用して、JMA サーバーを停止する。

```
ovstop JMAintegrator
```

2. ファイル /usr/CML/JMA/java/properties/JdmServerProperties.txt を編集して、下記のセクションを

```
# The services property identifies the service classes to be started  
# when the JDM server is started.  
#      ibm.nways.jdm.TrapCatcher                ¥  
services=ibm.nways.jdm.RemoteModelFactoryManager ¥  
          ibm.nways.jdm.modelgen.InstrContextFactoryMgr    ¥  
          ibm.nways.jdm.SnmpService                ¥
```

```
ibm.nways.jdm.browser.BrowserService    ¥
ibm.nways.jdm.traceroute.TraceRouteService ¥
ibm.nways.perfhook.ModelListener
```

下記のように変更する。

```
# The services property identifies the service classes to be started
# when the JDM server is started.
#      ibm.nways.jdm.TrapCatcher          ¥
#      ibm.nways.perfhook.PerfService     ¥
services=ibm.nways.jdm.RemoteModelFactoryManager ¥
          ibm.nways.jdm.modelgen.InstrContextFactoryMgr    ¥
          ibm.nways.jdm.SnmpService          ¥
          ibm.nways.jdm.browser.BrowserService    ¥
          ibm.nways.jdm.traceroute.TraceRouteService ¥
          ibm.nways.perfhook.ModelListener ¥
```

3. ファイルを保管する。
4. 次のコマンドを使用して、JMA サーバーを再始動する。

ovstart JMAintegrator

ネットワーク・トラフィックとパフォーマンス・データベースのサイズの両方を最小化するのに加えて、自動ポーリングの停止は以下の効果をもたらします。

- パフォーマンス・ポーリングは、新規または以前に管理された装置については行われません。
- JMA ナビゲーション・ツリーのパフォーマンス・プレットは青になります (状況=不明)。
- パフォーマンス・プレットをクリックすると、パネルにはパフォーマンス・ツールバーだけが表示されることになります。
- ログ・ファイルにいくつかの『Cannot find PollingService』メッセージが入ります。

自動ポーリングを復元するには、上記の変更を逆にして、JdmServerProperties.txt ファイルをその元の状態に戻します。

注: 装置を過度にポーリングすると、装置と装置管理アプリケーションの両方についてパフォーマンスが低下する可能性があります。これらのタイプのパフォーマンス低下が発生する場合は、ポーリング構成を検討してください。

Web サーバーの設定

すべての Web サーバーは、ポート 80 (ほとんどのサーバーでのデフォルト・ポート) でクライアントを listen するように構成設定する必要があります。

Apache Web サーバー

ファイルに以下の行を、示された順に追加します。

```
/Server_root/conf/srm.conf.  
Alias /nways "/Nways_root/CML/JMA/java/websvr"  
Alias /cgi/code "/Nways_root/CML/JMA/java/websvr/code"  
ScriptAlias /cgi "/Nways_root/CML/JMA/java/websvr"
```

Server_root: Apache Websvr がインストールされているディレクトリー。

Nways_root: Nways プロダクトがインストールされているディレクトリー。

Netscape Web サーバー

1. サーバーのメイン・ページに進み、サーバーがオンになっているかどうかを検査する。
2. ページの上部から **Programs** メニューを選択する。
 - a. **CGI File Type** を選択する。
 - b. ファイル・タイプとして Activate CGI に **Yes** を選択する。
3. 上部メニューから **Content Management** を選択する。

Additional Document Directories を選択し、以下の行を追加する。

```
URL prefix: nways  
Map To Directory: /Nways_root/CML/JMA/java/websvr  
  
URL prefix: cgi  
Map To Directory: /Nways_root/CML/JMA/java/websvr
```

Domino Web サーバー

1. 次のアドレスに進む。
`http://Machine/Frntpage.html`

(Machine-- Domino Web サーバーをインストールしたマシン。)
2. **Configuration and Administration Forms** を選択する。
(`http://Machine/admin-bin/Cfgin/initial`)
3. **Request Routing** を選択する。
(`http://Machine/admin-bin/Cfgin/mpfrule`)
4. 以下の行を、示された順に追加する。

アクション	要求テンプレート	置き換えファイル・パス
Pass	/nways/*	/Nways_root/CML/JMA/java/websvr/*
Exec	/cgi/CgiLauncher*	/Nways_root/CML/JMA/java/websvr/CgiLauncher*
Pass	/cgi/*	/Nways_root/CML/JMA/java/websvr/*

ATM マネージャーへの Web アクセス

Web ブラウザーを介して ATM マネージャーを使用できるようにする前に、Web サーバーを次のようにして構成設定する必要があります。

1. Web サーバーの構成ファイルに以下のコマンドを入力する。その際、2 つの『Pass』ステートメントがこの順序で入力されるようにする。

```
Exec      /atm-bin/*      /usr/CML/ATMWEB/bin/*
Pass      /atm-html/*    /usr/CML/ATMWEB/html/*
Pass      /*       /a directory path/*
```

2. 該当するコマンドを入力して、Web サーバーをリセットする。たとえば、次のように入力します。

```
refresh -s httpd
```

リモート・モニター

リモート・モニターを使用できるようにする前に、RMONHOME 環境変数を設定し、それがインストールされたディレクトリーをポイントする必要がある。これは、デフォルトでは /usr/LANReMon/rmon にインストールされます。RMONHOME 環境変数を .profile または .dtprofile で設定し、それをデフォルトのパスに追加するには、.profile に以下のものを追加します。

```
RMONHOME=/usr/LANReMon/rmon
export RMONHOME
PATH=$RMONHOME:$PATH
export PATH
```

トラフィック・モニター

トラフィック・モニターを使用できるようにする前に、TRAFFICMONHOME 環境変数を設定し、それがインストールされたディレクトリーにポイントする必要がある。これは、デフォルトでは /usr/LANReMon/trafficmon にインストールされます。TRAFFICMONHOME 環境変数を .profile または .dtprofile で設定し、それをデフォルトのパスに追加するには、.profile に以下のものを追加します。

```
TRAFFICMONHOME=/usr/LANReMon/trafficmon
export TRAFFICMONHOME
PATH=$TRAFFICMONHOME:$PATH
export PATH
```

トラフィック・モニターを開始する前に、次のデータベースも作成する必要があります。

```
/usr/LANReMon/trafficmon/tfm_dbcreate <db_dir> <db_link>
ln -s <db_dir>.dbs /usr/LANReMon/trafficmon/<db_link>.dbs
```

ここで、<db_dir> は、データベースが保管されるディレクトリーであり、<db_link> は、/usr/LANReMon/trafficmon ディレクトリーで作成される必要があるデータベースの名前およびリンクの名前です。

<db_link> は通常は **tfm** であり、実際のリンク名は **tfm.dbs** です。

Nways デプロイメント・マネージャー

Nways デプロイメント・マネージャーは、データベース名、ユーザー ID、およびパスワードをすべて ConfigMan に設定して DB2 データベースを作成する必要があります。

第5章 Nways Manager for AIX の開始

アプリケーションを初めて開始するときは、必ず、root ユーザーとしてログインします。インストールした Nways Manager アプリケーションを開始するには、次のコマンドを入力します。

nv6000

NetView root マップが表示され、そこから Nways Manager アプリケーションをオープンできます。

- エlement・マネージャーをオープンするには、次のように行います。
 - NetView root マップ 『Hubs Topology』 アイコンをクリックし、IBM Hubs トポロジを表示する。
 - NetView root マップ 『LAN』 アイコンをクリックし、LAN Network サブマップを表示する。
 - NetView root マップ 『Router and Bridge Manager』 アイコンをクリックし、Router and Bridge Manager をオープンする。
 - Nways Device Management アイコンをクリックし、Device Manager トポロジを表示する。
- **Nways Manager ATM** をオープンするには、次のように行います。
 - 『ATM Campus』 アイコンをクリックし、ATM トポロジを表示する。
 - 『VLANs』 アイコンをクリックし、LAN-Emulation 機能を使用する。
- リモート・モニターをオープンするには、NetView メニュー・バーから **Monitor->Nways Manager-Remote Monitor->Nways Manager-Remote Monitor Tools** の順で選択します。
- トラフィック・モニターをオープンするには、NetView メニュー・バーから、**Monitor->IBM Traffic Monitor->Start Traffic Monitor** を選択してから、**Monitor->IBM Traffic Monitor->Start Map** を選択します。

リモート・モニターおよびトラフィック・モニターは、NetView を開始せずにスタンドアロン・モードで実行することもできます。

スタンドアロン・モードでのリモート・モニターの開始

リモート・モニターをスタンドアロン・モードで実行するには、次のように入力します。

- **\$RMONHOME/rmon**

スタンドアロン・モードでのトラフィック・モニターの開始

トラフィック・モニターをスタンドアロン・モードで実行するには、次のように行います。

- Collector を開始するには、次のように入力する。
 - **cd \$TRAFFICMONHOME**
 - **./trafficmon start**
- Map を開始するには、次のように入力する。
 - **cd \$TRAFFICMONHOME**
 - **./trafficmon map**
- Error Log Monitor を開始するには、次のように入力する。
 - **cd \$TRAFFICMONHOME**
 - **./trafficmon log**

ATM マネージャーへの Web アクセス

Web ブラウザーを使用して ATM マネージャー機能にアクセスするには、次の Web ページを使用します。

```
http://hostname/atm-html/AtmWebMngt.html
```

ここで、*hostname* は、Web アクセス・サポートを使って ATM マネージャーをインストールしておいた AIX 端末です。

README ファイルへのアクセス

README ファイルをインストール・プロセスの一部として表示することもできます。次の README ファイルもインストールされます。

コンポーネント	README ファイル
エレメント・マネージャー	/usr/lpp/cml/lpp.README
分散インテリジェント・エージェント	/usr/CML/JMA/dia/readme.txt
Nways Manager ATM	/usr/lpp/ahm6000/lpp.README
リモート・モニター	/usr/lpp/lanReMon/lpp.README
トラフィック・モニター	/usr/lpp/trafficMon/lpp.README

ObjectStore の使用方法についての情報は、次のファイルにあります。

```
/usr/lpp/ODI/OS5.0/common/doc/mo/index.htm
```

オンライン資料へのアクセス

Nways Manager を開始した後、Nways Manager アプリケーション用のオンラインの User's Guide にアクセスすることができます。

エレメント・マネージャーのオンライン資料

- **Help -> Element Manager User's Guide** を選択し、以下のアプリケーションについてのオンライン資料にアクセスする。

8250 Multiprotocol Intelligent Hub Device Manager

8260 Nways Multiprotocol Switching Hub Device Manager

8265 Nways ATM Switch Device Manager

FDDI Management using 8244 FDDI Workgroup Concentrator

SNMP Bridge/Switch Manager

Token-Ring Management accessing LAN Network Manager for OS/2

Token-Ring Management using SNMP Token-Ring Devices

- Acrobat Reader 3.0 を使用して、次のディレクトリーのもとで入手可能な IBM 8260 LAN Switching Modules Series のオンライン資料にアクセスする。

/usr/CML/doc/cml.nsmm.pdf

- **Help->IBM Device Managers User's Guide** を選択して、次のものについてのオンライン資料にアクセスする。

8224 Ethernet Stackable Hub Device Manager

8225 Fast Ethernet Stackable Hub Device Manager

8230 Token-Ring Controlled Access Unit Device Manager

8235 Dial-In Access to LANs (DIALs) Server Device Manager

8238 Token-Ring Stackable Hub Device Manager

8273/8277 Nways Ethernet RouteSwitch Device Manager

8274 Nways LAN RouteSwitch Device Manager

8276 Nways Ethernet RoutePort Device Manager

8281 Nways ATM LAN Bridge Device Manager

8282 Nways ATM Workgroup Concentrator Device Manager

8285 Nways ATM Workgroup Switch Device Manager

Nways Manager ATM のオンライン資料

- **Help->Nways Manager->ATM User's Guide** を選択して、以下のアプリケーションについてのオンライン資料にアクセスする。

ATM Manager

LAN Emulation Manager

リモート・モニターおよびトラフィック・モニターのオンライン資料

- Acrobat Reader 3.0 を使用して、以下のディレクトリーで入手可能なリモート・モニターおよびトラフィック・モニターについてのオンライン資料にアクセスする。

```
/usr/LANReMon/doc/ecam.pdf  
/usr/LANReMon/doc/ttmm.pdf  
/usr/LANReMon/doc/lanremon.pdf  
/usr/LANReMon/doc/trafficMon.pdf
```

Acrobat Reader 3.0 のインストールおよび使用

Acrobat Reader 3.0 は、CD-ROM で提供されます。これをインストールするには、次のように行います。

1. 次のコマンドを使用して、/cdrom/acrobat にあるファイル aixreader.tar を解凍する。

```
tar -xvf aixreader.tar
```
2. その結果得られるファイルを圧縮解除する。
3. INSTALL と入力し、手順に従う。
4. プロンプトに応じて、インストール・ディレクトリーを入力する。これは、デフォルトでは、次のとおりです。

```
/usr/lpp/Acrobat3
```

5. Acrobat Reader のインストール・ディレクトリーを使って、.profile または .dtprofile を更新する。

```
export PATH=$PATH:/usr/lpp/Acrobat3/bin
```

6. 次のコマンドを使用して、Acrobat Reader をインストールした場所にリンクを追加する。

```
ln -s /usr/lpp/Acrobat3/bin/acroread /usr/bin/acrobat
```

この例では、デフォルト・ディレクトリーで Acrobat Reader をインストールしてあると想定していることに注意してください。

Acrobat Reader 3.0 を開始するには、**acroread** と入力してから、探している資料が保管されているディレクトリーを選択します。

第6章 Nways Manager アプリケーションの除去

Nways Manager アプリケーションを除去するには、以下のステップに従います。

1. root ユーザーとしてログインする。
2. NetView デーモンをすべて停止していることを確認する。
3. プロンプトで、smit と入力する。
4. SMIT メインメニューから、**Communications** をクリックする。
5. **Nways Campus Manager** を選択する。
6. **Maintain** を選択する。
7. **Campus Manager general maintenance** を選択する。
8. **Remove Nways Campus Manager Software** を選択する。

選択したコンポーネントを除去したい場合は、**Campus Manager general maintenance** メニューの下に表示されるオプションを使用します。

注: この手順では、Nways キャンパス・マネージャー LAN の Router and Bridge Manager コンポーネントが除去されることはなく、Nways リモート・モニターが除去されることもありません。これらのアプリケーションを除去するには、次のように行います。

1. root ユーザーとしてログインする。
2. NetView デーモンをすべて停止していることを確認する。
3. プロンプトで、smit と入力する。
4. SMIT メインメニューから、**Software Installation and Maintenance** をクリックする。Software Installation and Maintenance メニューが表示されます。
5. **Maintain Installed Software** を選択する。
6. **Remove Software Products** を選択する。
7. 「Remove Software Products (ソフトウェア・プロダクトの除去)」ウィンドウで、除去したいコンポーネントのファイル・セットを選択してから、**OK** を選択する。ファイル・セット は、次のページにリストされます。
8. メニュー・バーから **Exit -> Exit SMIT** を選択して、SMIT を終了する。

除去手順中、除去および構成解除ステップが SMIT ウィンドウに表示されます。これらのステップは、smit.log ファイルおよび各コンポーネントのログ・ファイルに記録されています。32ページの『ログ・ファイル』を参照してください。

ファイル・セット

Nways Manager for AIX バージョン 2.0 アプリケーションを除去 (アンインストール) するには、各コンポーネントにファイル・セットを指定する必要があります。

ライセンス・ファイル・セット - すべてのコンポーネントで共用

ライセンス・ファイル・セット `cml.license.cat` は、Nways Manager のすべてのコンポーネントによって使用されます。プロダクト全体をアンインストールしているのではない限り、このファイル・セットは除去しないでください。

エレメント・マネージャー・ファイル・セット

```
alertman.obj
cml.baseLan
cml.books
nwaysmgr.jma
ahm6000.base.msg.En_US
cml.br
cml.fddi
cml.Jjim
cml.Jjim.msg.En_US
smcfg.dtext.En_US.eui.obj
cml.license.ncml
smcfg.eui.obj
cml.lnme
smmlm.subagent.obj
cml.tr
cml.baseLan.msg.En_US
cml.br.msg.En_US
cml.fddi.msg.En_US
cml.lnme.msg.En_US
cml.tr.msg.En_US
nwaysmgr.jma.msg.En_US
cml.8250-60
cml.8250-60.msg.En_US
```

キャンパス・マネージャー - ATM ファイル・セット

```
ahm6000.atmweb          cml.Jfault
ahm6000.atmweb.msg.En_US cml.Jpnni
ahm6000.base           cml.jvnet
ahm6000.base.msg.En_US cml.license.ncma
ahm6000.books.En_US.base cml.vnet
```

Nways Manager ATM およびエレメント・マネージャーによって共用される共通ファイル・セット

```
cml.base
cml.base.msg.En_US
ostore_runtime.base
cml.Jcomm
cml.Jcomm.msg.En_US
```

リモート・モニター・ファイル・セット

cm1.license.rmon lanReMon.base.obj
lanReMon.advance.obj lanReMon.En_US.books

トラフィック・モニター・ファイル・セット

cm1.license.traffic
trafficMon.traffic_Mon trafficMon.En_US.books

リモート・モニターおよびトラフィック・モニターによって共有される共通ファイル・セット

rmonCommon.rmon_Common

ログ・ファイル

表 1. Nways Manager for AIX バージョン 2.0 コンポーネントのログ・ファイル

コンポーネントおよびディレクトリー	ログ・ファイル
エレメント・マネージャー・ログ・ファイルは、次のディレクトリーで入手可能です。 /usr/CML/install_log /usr/CML/deinstall_log	cml.base.log cml.baseLan.log cml.books.log cml.br.log cml.fddi.log cml.lnme.log cml.smm.log cml.tr.log nwaysmgr.jma.log
Nways Manager ATM ログ・ファイルは、次のディレクトリーで入手可能です。 /usr/CML/install_log /usr/CML/deinstall_log	ahm6000.base.log cml.base.log
リモート・モニター・ログ・ファイルは、次のディレクトリーで入手可能です。 /usr/LANReMon/install_log /usr/LANReMon/deinstall_log	lanReMon.base.obj.log lanReMon.advance.obj.log rmonCommon.rmon_Common.log
トラフィック・モニター・ログ・ファイルは、次のディレクトリーで入手可能です。 /usr/LANReMon/install_log /usr/LANReMon/deinstall_log	trafficMon.traffic_Mon.log rmonCommon.rmon_Common.log

第7章 特記事項

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのようなIBM製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBMライセンス・プログラムまたは他のIBM製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBMの知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBMによって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBMおよび他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用权等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用权等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木3丁目2-31
AP事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

本書において IBM 以外の Web サイトに言及していることがありますが、便宜上記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM プロダクトの資料の一部ではなく、それらの Web サイトは、お客様の自己責任のもとでご使用ください。

商標

以下の用語は、IBM Corporation の米国またはその他の国における 商標です。

AIX	DB2 Universal Database	AIXwindows
DB2	IBM	APPN
Nways	SmoothStart	OS/2

NetView および TME 10 は、米国およびその他の国、あるいはその両方における Tivoli Systems, Inc. の商標です。

Domino および Lotus は、米国またはその他の国、あるいはその両方における Lotus Development Corporation の商標です。

Java およびすべての Java ベースの商標およびロゴは、米国またはその他の国、あるいはその両方における Sun Microsystems, Inc. の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

UNIX は、X/Open Company Limited がライセンスしている米国ならびにその他の国における登録商標です。

その他の会社名、製品名、およびサービス名は、他社の商標またはサービス・マークです。



Printed in Japan

SB88-7426-00



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12